

科目ナンバリング		G-LAS10 80002 LB31											
授業科目名 <英訳>		東アジアジュニアワークショップ East Asia Junior Workshop				担当者所属 職名・氏名		文学研究科 准教授 Stephane Heim 文学研究科 准教授 安里 和晃					
群		大学院横断教育科目群			分野(分類)		人文社会科学系			使用言語		日本語及び英語	
旧群		単位数		3単位		週コマ数		1コマ		授業形態		講義（対面授業科目）	
開講年度・ 開講期		2024・前期		曜時限		月4		配当学年		大学院生		対象学生 全学向	
(文学研究科の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。)													
[授業の概要・目的]													
「東アジア社会」についての理解を深めることを目的に、京都大学、国立台湾大学、ソウル大学の社会学科・社会学専修が共同で実施する授業であり、今年度は12年目となる。学期中の授業では、東アジア社会について3大学の教員が交替でスカイプ授業を行う。その後、京都、台北、ソウルのいずれかでワークショップとフィールドトリップを実施する（今年度はソウル）。ワークショップでは、3大学から参加した学生が、各自の関心にしたがって英語で研究発表を行う。ホスト校の学生は、その社会をさまざまな角度から知ってもらうためのフィールドトリップを企画して実施する。 国際的な遠隔授業と英語ワークショップの組合せという、全国にも類例のない授業であり、近隣の諸社会との共通性と相違を身をもって理解し、グローバルな活動経験を積む機会となる。国境を越えた友人ができることも楽しい収穫となるだろう。何年か続けて受講して3都市を回るリピーターも歓迎する。													
[到達目標]													
(1)東アジア社会、とりわけ台湾や韓国に関する文献を読み、講義を受け、フィールドトリップに参加することで、東アジアに関する全般的かつ経験的理解を深める。 (2)国立台湾大学、ソウル大学の学生たちとの直接の交流を通じて、隣国の同世代の人たちの関心、考え方、実力を知り、交流を深める。 (3)英語のプレゼンテーションを行い、質問の受け答えができるようになる。													
[授業計画と内容]													
第1回～第6回 3大学の教員によるスカイプ授業 第7回～第15回 各自の関心にしたがってパワーポイント資料を作成し、英語で発表練習を行う。 8月お盆明けの5日間 ワークショップとフィールドワーク													
[履修要件]													
英語での受講と研究発表に最低限必要な学力、もしくはチャレンジ精神をそなえていることが求められる。													
[成績評価の方法・観点]													
授業へのコミットメント、ワークショップとフィールドトリップへの積極的参加、英語でのプレゼンテーションにより評価する。詳細は授業で説明する。													
[教科書]													
使用しない													
-----東アジアジュニアワークショップ(2)へ続く↓↓↓													

東アジアジュニアワークショップ(2)

[参考書等]

(参考書)

各講義につき論文1本程度を指示する。Kulasisからダウンロードすること。

[授業外学修（予習・復習）等]

各講義につき論文1本程度をあらかじめ読んでくる。各自の関心にしたがって発表資料を作成する。

[その他（オフィスアワー等）]

詳細は最初の授業で説明する。